

## PAWEES の活動報告と今後の計画 Activity report and future plan of PAWEES

○松野 裕\*

Yutaka MATSUNO\*

### 1. 背景

国際水田・水環境工学会(International Society of Paddy and Water Environment Engineering: 通称 PAWEES)は、農業農村工学会を中核とし韓国農業工学会および台湾農業工学会、さらに国際機関が連携して 2003 年に設立されたアジア発の水田稲作農業を中心とした水環境分野における科学・技術振興を目的とした国際学会である。PAWEES が母体となって発刊する国際誌 Paddy and Water Environment (PWE)は、2003 年 3 月に開催された第 3 回世界水フォーラムに時期を合わせて Springer 社から創刊号が発刊された。PWE 誌は年 4 回継続的に発行されてきたが、2009 年にインパクトファクターの付くジャーナルとして SCIE (ISI データベース) に収録された。インパクトファクターは、2009 年から現在まで概ね 1.0 前後を維持している。PAWEES 事務局は、2011 年より農業農村工学会内に事務局が固定されることになった。また、学会長は 3 カ国が 2 年ごとに持ち回り、現在は台湾のメンバーが会長を務めている。

PWE 誌の刊行以外で、PAWEES が担う主要な機能に国際研究集会の開催がある。また、国際研究集会の開催期間中に、PAWEES 国際賞、PWE 論文賞、PWE レビュー一賞の授与式が開催されている。国際研究集会は、毎年 1 回コアメンバーである韓国農業工学会、台湾農業工学会、農業農村工学会が持ち回りで主催者となっているが、近年は農業農村工学会が主催する年はコアメンバー国以外で開催するように務めている。そこで、2009 年にインドネシア・ボゴール大学で開催したのを手始めに、2012 年はタイ国で開催した。また、2015 年はマレーシアで開催する計画がある。より詳細な PAWEES の活動については <http://pawees.net/>を参照願う。

### 2. 最近の動向

2013 年の PAWEES 研究集会は、韓国農業工学会が中心となり清州 (Cheongju) において 10 月 30 日から 11 月 1 日の間に開催された。研究集会のメインテーマは、「農業用水と地域環境の将来」とし、「気候変動と水資源」、「持続的な土と水の管理」、「地域計画と

---

\*PAWEES 事務局長: Secretary General of PAWEES, 近畿大学農学部: School of Agriculture, Kinki University  
キーワード: PAWEES, 水田・水環境工学

環境」、「農業栄養分の管理と環境クオリティ」、「農業の水が持つ社会と経済への多面的役割」をサブテーマとしてそれぞれのセッションにおいて研究発表がおこなわれた。また、スチューデントセッションを実施し、学生による発表がなされた。合計で 80 の研究発表がなされ、うち 18 の発表がスチューデントセッションにおいて行われた。参加国は、韓国、台湾、インドネシア、ミャンマーなどの国におよび、日本からも PAWEES 名誉会長の佐藤洋平氏を団長として多数参加した。また、研究集会 2 日目に開催された PAWEES 総会では、「PWE 誌出版」、「PAWEES の運営」、「加盟国間の国際協力」について討議された。そのなかで、PWE 出版業務および PAWEES 管理業務の現況と課題、ならびに今後の PAWEES を通じた国際連携活動の強化策などについての議論がなされた。国際連携活動については、特に 2015 年に韓国で開催される第 7 回世界水フォーラムへの PAWEES として積極的に関与する方策について議論された。また研究集会ではスチューデントセッションも継続して実施することが確認された。

今年の PAWEES 研究集会は、メインテーマを「モンスーンアジアにおける持続的な水と環境管理」とし 10 月 30 日と 31 日に台湾高雄(Kaohsiung)で開催される(詳細は上記の PAWEES ホームページ参照)。サブテーマは、「持続的水利用と生態的持続可能な開発」、「アジアにおける地域社会の水関連の開発」、「持続的米栽培の構築」、「統合的流域管理」、「渇水と洪水リスクの管理」の 5 つとなっている。

今年の研究集会も、例年通りに日本からの多くの参加を期待したい。

### 3. 今後の展開

以上に述べたように、PAWEES 活動の場は着実に広がってきている。PAWEES・PWE 誌に対しての認知度が近年上昇していることは確実である。これには、PWE 誌の SCIE 収録が大きな原動力となっていることは容易に想像付くが、関係各位の尽力の賜物でもある。PAWEES 創立・PWE 誌発刊から 10 年以上経過し、今後はさらなる飛躍を期待できるであろう。現在、コアメンバー国以外にもインドネシアと協力体制が構築されているが、現在タイも PAWEES への積極的な参加の意思表示をしている。

一方、アジア地域、さらにはグローバル規模で PAWEES の活動の場を広げて行く中で、活動に不可欠な財政的基盤を確立することには常に困難が付きまわっている。PWE においても、投稿論文数が飛躍的に増加している状況でその管理体制の強化や掲載論文数の増加を考えた場合の財政的な負担増にどう対処して行くかの積極的な議論が必要であろう。他方、購読料収入のロイヤルティとして昨年からは Springer からの支払いがある。購読者の増加は財政状況の改善に直結することであり、今後も PWE の積極的な宣伝および知名度向上に務める必要があるだろう。